

農業に 懸ける 情熱

【知り合いのいないなかで始まった農家人生】

夫の朋秀さんと2人で約2.6畧の農地にメロンやミニトマト、パレイショ、カボチャ、ナス、スイートコーン、オクラなどを栽培しています。

平成18年に出産や夫の転勤、実習先の農家の引退など、さまざまなタイミングが重なったことにより、夫婦でよく話し合い、三笠市へ移住を決意して農業を始めました。知り合いのいないなかで始まった農家人生でしたが、地域の先輩方の助けなどもあり多くの知識を身に付け、昨年からは越冬ハウスで冬季無加温栽培にも挑戦しています。



「農業にチャレンジするために 移住を決意」

「今チャレンジしていることは越冬ハウスでの冬季無加温栽培です。昨年は手探り状態のなか、リーフレタスの栽培に挑戦してみたところ、品質の良いものが収穫でき、満足のいく結果となりました。今後は、再現性を高めるために研究を重ね、他の作物でも越冬ハウス無加温栽培を行い、通年出荷をすることが目標です」と力強く話してくれた絵美さん。

九州出身の夫の朋秀さんとともに九州から三笠市へ移住し、今年で就農17年目を迎えます。三笠市に来る前は農業とは全く別の職業に就いていましたが、母の親戚が農業を営んでいたこともあり、農業に携わりたいと考えていました。ある日学生時代に短期農業体験で訪れていた、後に親方となる農家の方から、引退を考えているから跡を継がないか？と連絡をいただき、農業をするなら今しかないと思い、家族で三笠市への移住を決意しました。

移住当初は三笠市のことはもちろん、知り合いも全くいなかったため不安ばかりだったという絵美さん。「就農3年目で女性部に加入したことで、幅広い交友関係を築くことができ、農業の知識もさらに身に付け、今年からは女性部三笠支部の支部長を務めています。地域の先輩方には、今でも悩みや相談事を打ち明けると親身になって耳を傾けていただき、さまざまなことを教えてくれます」

最後に「通年で農作物を収穫したいと考えているので、1年中休みなく働いています。自分の趣味がそのまま職業になっているので、毎日幸せに仕事をすることができています。これからも夫とともに楽しく農業を続けていくために、ケガや事故には十分気を付けていきたいです」と話してくれました。

三笠市達布
の
野見山 絵美さん